

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. III-13	資料名	朝鮮国王孝宗親筆額字
------	-----------	-----	------------



卷子装 紙本墨書 〔縦×横〕 47.0×253.0cm

朝鮮国王孝宗(李淏)が自筆で「靈山法界崇孝淨院」と墨書したもので、1655年の朝鮮通信使が携行して日光を訪問し、徳川将軍家光を祀る大猷院に額字として寄進した。「靈山法界」は日光、「崇孝淨院」は家光廟所の大猷院廟を表すという。末尾に「乙未孟夏下浣」の年紀墨書、「以政以德」と捺された朱印がある。

この時、大猷院には銅製灯籠、銀製香炉、楽器なども併せて寄進され、現存している。この使行は、1651年に没した家光の弔いを目的の一つとしていた。徳川将軍と朝鮮国王の親密な交流を証するものとして貴重。

資料番号	J. III-14	資料名	東照社縁起(仮名本)5巻のうち 第4巻
------	-----------	-----	---------------------



卷子装 紙本署色 〔縦×横〕 33.0×1636.0cm

1636年に来日した朝鮮通信使が、日朝間の国交回復に尽力した徳川初代将軍家康を祀った日光東照社を訪問した時の様子を描いたもの。この時が初めての朝鮮通信使の日光訪問である。作者は当時の日本を代表する画家の狩野探幽で、徳川三代将軍家光の命により制作され、東照社に奉納された。また、朝鮮通信使の日光訪問のことが仮名交じり文で記述されるとともに、三使が詠んだ詩3点も所収されている。

朝鮮通信使と徳川将軍家の関係を知ることができる資料であり貴重。